中学1年

学級レクを通して

友達の輪を広げよう

大まかな単元の流れ

前期 振り返り 計画 AP → 学級レク D → 振り返り C → 次の目標をもつ A

クラスの生徒について
- **学校行事や班活動など友達と協力して物事に取り組むことに楽しさや意義を感じている。**
- **自分の個性を発揮したり、周りに認めてもらっていると感じたりする生徒が少ない。**

手立てのポイント①

【生徒が課題意識を持ち、ＰＤＣＡを回す手立て】

前期の学級アンケートを振り返る

前期のアンケートの結果を学級で共有し、学級レクを楽しむだけではなく、「どのような学級にしたいか」ということを軸に学級レクの目標と内容を話し合った。話し合いの結果、学級レクの目標は「友達の輪を広げよう」に決まった。

振り返りと次の目標設定を即時に行う

学級レクを終えたらすぐに振り返りを行った。一見、みんなが楽しめているようでも毎回、改善点が見つかり、次の活動につなげやすかった。第１回のドッジボールの反省点は、「ボールから逃げているだけで交流が深まらない」だったので、第２回は「多くの生徒がボールに触れるバレーボールにしよう」という意見が尊重された。ＰＤＣＡサイクルを回すことで自治的な活動になった。

手立てのポイント②

【合意形成を図る手立て】

学級会を開く

学級レクの内容を決めるための学級会を開催した。小学校では馴染みの深い学級会だが、中学校ではあまり多くない。他者意識の高まりから意見を表明しにくい生徒がいることを踏まえ、小集団での話し合いを効果的に取り入れながら行った。

意見を言いやすい環境にしたことで、みんなが楽しむための創意工夫の凝らされたルールが提案され、自分たちオリジナルのレクを開催することができた。

手立てのポイント③

【自己肯定感を高める手立て】

実行委員が企画・運営を行う

毎回、実行委員を立候補で募り、６名の生徒から成る実行委員会を結成した。回を重ねるごとに、普段はあまり積極的でない生徒も立候補し、自分の個性を発揮する機会を得て、それぞれの良さを生かした活動ができた。

実践を通して見られた生徒の様子

回数を重ねるごとに実行委員に立候補する生徒が増え、改善点を解消するために取り組み、活動後の達成感を味わうことで、自己肯定感を高める生徒が多くなった。また、生徒がお互いのことを尊重して活動に取り組めるようになった。

実践詳細の二次元コード